

秋建時報

<http://www.a-kenkyo.or.jp>

秋建時報

平成25年8月1日(第1231号)



発行／(社)秋田県建設業協会
秋田市山王四丁目3番10号
TEL 018(823)5495
FAX 018(865)2306

全建

会員企業2社の活動を表彰

平成25年度建設業社会貢献活動
推進月間中央行事

7月25日、東京都の経団連会館において、(一社)全国建設業協会が主催する「平成25年度建設業社会貢献活動推進月間中央行事」が行われた。

全建では、公共事業の必要性、計画的な社会基盤整備はもとより、地域の基幹産業として地域経済・雇用等の維持並びに災害復旧活動等に貢献している建設産業の正しい姿について国民・社会からの理解・認識を醸成するため、毎年7月を「建設業社会貢献活動推進月間」と定め、各都道府県建設業協会・会員企業と連携し、地域建設業界の実践している幅広い社会貢献活動を、国民・社会に広くアピールするとともに、公共事業への理解を深める活動を展開しており、その一環として、中央行事を開催し、社会貢献活動を



行っている団体及び会員企業を表彰している。

今年度の中央行事における表彰式では、秋田県建設業協会の会員企業から環境美化活動の功績により秋田瀝青建設(株)(齊藤豊隆社長・潟上市)、社会福祉貢献活動の功績により伊藤工業(株)(伊藤満社長・秋田市)の2社が表彰を受賞した。

これら活動事例は全建において事例集に収録され、インターネットを通じて広くPRされる。

秋田県建設振興議員連盟

国土交通省へ要望活動を実施

秋田県建設振興議員連盟(北林康司会長)は、7月29日、国土交通省本省及び東北地方整備局を訪問し、同省の所管事業に係る要望活動を行った。

今回行った提案・要望は大きく▽人口減少に対応した「県土の骨格」を形成する道路ネットワークの整備▽ダム建設事業の促進▽環日本海交流の拠点となる秋田港等の整備促進と総合的なエネルギー供給基地としての港湾整備の三項目。

北林康司議員連盟会長を始めとした一団は、東北地方整備局・国土交通省本省の関係部局を訪問し、上記について取りまとめた提案・要望書を関係者に伝達し、地域の高規格道路等の未整備区間の整備着手を始



め、現在県内で計画されているダム事業について、建設事業の促進などを要望した。

また、翌日30日には東京都において、秋田県選出の国会議員、また、参議院比例において建設業を応援する脇雅史議員、佐藤信秋議員を訪ね、同じく提案・要望を行った。

秋田・鉄 路の情景

Vol.
10

「グッバイ、R1」

秋田新幹線E3系先行量産車



文と写真／加藤隆悦

フリーカメラマン兼フリーライター
取材・執筆歴／旅の手帖、WoodyLife、
ベンチャー・リンク、郷、ある他
海外取材歴／ドイツ、アメリカ、ブラジル
写真塾・写楽 主宰／写真教室、撮影ツアー
企画等

このコラムで何度か触れているように、秋田新幹線は来春までに現在のE3系と呼ばれる車両からE6系という新型車両に順次置き換えられる。一斉に置き換えるのではなく、製造が進められているE6系の編成が完成することにより編成ずつ置き換えていくという工程表になっている。

その象徴的な出来事が2013年7月20日にあった。「E3系量産先行車R1編成ラストラン」である。E3系として最初に誕生した編成(R1編成)がこの日午後0時57分に秋田駅を発車する「こまち36号」の運転を最後に引退するというものだ。

E3系は全部で26編成製造された。その第一号編成であるR1編成は、一見ただけでは他の編成と同じように見えるが、この編成だけ先頭車の前面がやや“細面”で、ヘッドライトが運転台下と運転台上の2カ所に配置されている点が、あとに続く編成と異なっている。

R1編成には試作車的な意味合いがあって、試運転などを重ねた結果で二号編成以降で改良が加えられたということなのだろう。

耐用年数を迎えた鉄道車両は、人知れず引退していくことのほうが多いが、E3系R1編成はメモリアルな車両でもあることから、JRでも早くから引退日を広く告知し、当日は秋田駅新幹線ホームで引退セレモニーが行われ、沿線にもR1の最後の勇姿をカメラに収めるべく、多くの鉄道ファンや一般市民が繰り出した。古豪の引退を見届ける最後の花道の様相であった。

ところで、このR1編成の製造は1995年だから、今まで18年間にわたって秋田と東京のあいだを走り続けてきたことになる(秋田新幹線は1997年の開業だが、それまでの2年は東北新幹線での試運転に充てられていた)。乗用車だったら18年も乗り続けるのはきわめて稀だろうし、仮にあったとしても相当のポンコツになっているだろう。それを考えると、R1編成には改めて、「ほんとうに長い間ご苦勞様」と声をかけてやりたくもなろうというものだ。

ミスター・ネクタイ

菅 禮子

鏡を見ると、シミだらけの顔をしている。かつての瑞々しく若々しかった面影は見るべくもない。人間というのは老いるものだということをしみじみ感じながら、ふとテレビの画面を見やると各党の候補者が来る参院選にあたっての政見放送をやっていた。おとなしく生真面目そうな顔が入れ替り、立ち替り登場してくる。中にはかつて銀幕の花形として、一世を風靡したひともあるが、そこには美男俳優として、全国の乙女たちの胸をときめかせた面影はすでになく、それぞれがそれぞれの踏み越えて来た歷程を大なり小なりに、その顔に^{きざ}刻んでいる。そういう容貌の老いの^{すがた}相を観るのは辛いなァと思っている内に、その方々の締めているネクタイがふと眼に入った。

一口にネクタイと言ってもさまざまある。

そのネクタイがご本人自身の人間性、その人生に対する方向性を^{あらわ}顕している、と思うのだ。

中には燃えるような情熱と闘志を表現したような真赤な巾広のをぶら下げている人。スーツの上衣の鼠色とほとんど変わらない、くすんだ色のネクタイをしめて、ボソボソと、可もなく不可もないような意見を述べているひと。それらのネクタイの色、柄、巾、長さは千差万別である。

「お！これは」と思うようなのには、めったにお目にかからないが、強いてあげてみると、テレビ番組「新婚さんいらっしゃい」の司会者“桂文枝”師匠、往年の野球名選手、“落合博満”氏は、上衣の服の色にマッチしていて良かった！

ネクタイそのものに罪はないのである。

それを首にぶら下げている人によってネクタイは生きるか死ぬか、値打ちが決まるのだ。それがテレビの画面に映し出される政見放送ともなれば、ネクタイだからと言って、仇やおろそかには出来ない。テレビの画面の中でミスター・ネクタイを選出するとすれば皆さんは誰を選びますか？やはり安倍総理と言えまいか？その時総理は濃紺のスーツに水色のワイシャツ、金色の太めのネクタイをしておられて、重厚さと気品にみちていた。

これはあくまでわたし個人の選択で、けっして権力者への憧れとか、へつらいではない。

全国の視聴者がだれをミスター・ネクタイとして選ばれるか？興味津々である。

それも、それが一国の指針、方途、さらには命運を決するともなれば、仇やおろそかに、たかがネクタイと言ってはおられまい。もし毎度首にぶら下げるそれが、ご本人でなく、夫人が選んでいるともなれば、女性の責任は重い！センスを磨くべきは、我々女性ということになろう。